

在宅連携センターつむぎは、高齢者を支える医療・介護・福祉関係者の相談窓口として、2015年度に開設しました。「つむぎ通信」は2019年度から在宅連携センターつむぎの周知と情報発信のため発行しています。バックナンバーは[ホームページ](#)からご覧ください。→
<https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/information/>



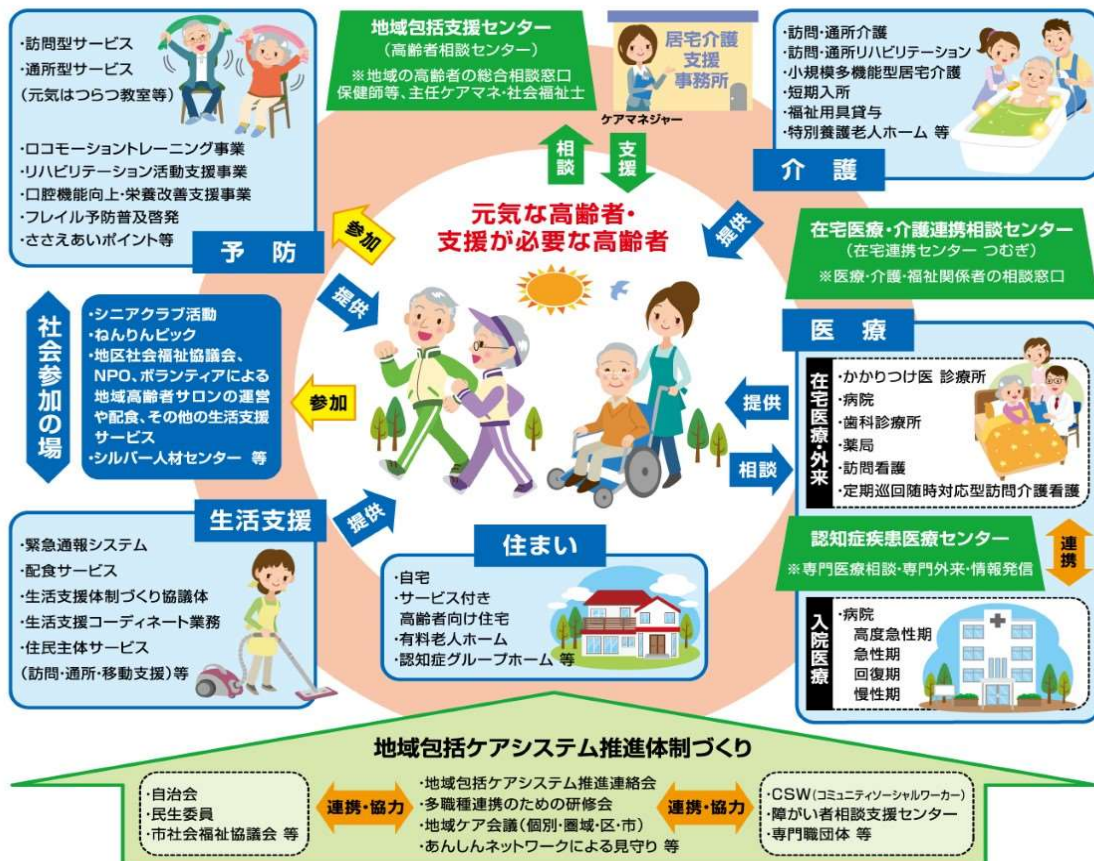
今一度「地域包括ケアシステム」とは…



地域包括ケアシステムとは、できる限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるように「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」が一体的に提供される体制です。

私たちも介護・医療に関わるケアシステムの一員として、役割を見失わないように、今一度「地域包括ケアシステムとは？」と振り返る事も必要だと感じています。

【浜松市の地域包括ケアシステムの姿】



(はままつ友愛の高齢者プランより)

浜松市の高齢者に関する総合的な計画である、はままつ友愛の高齢者プランでは「地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進」をサブタイトルに、さまざまな取り組みが行われてきました。

現在のプランは今年度(令和5年度)までとなっており、浜松市にて次期計画策定が進められています。地域共生社会の実現に向けて浜松市の目指すべき姿を再考する時期となっています。

相談事例Q & A～相談内容を紹介します～



Q → 在宅酸素・生活保護の対応ができるグループホームの情報を知りたい。(ケアマネジャー)

A → つむぎで行っているアンケート結果から、対応できそうなグループホームの情報を提供した。

Q → 訪問リハビリテーションをしてくれる言語聴覚士を探している。(ケアマネジャー)

A → つむぎ内の情報から、訪問看護ステーションと送迎範囲内のデイケアの情報を提供した。

Q → 難病の医療費助成制度(指定難病)について教えてほしい。(ケアマネジャー)

A → 申請方法、自己負担上限額など制度の概要をお伝えした。

また病気に関する公的な情報として、「難病情報センター」のホームページについて紹介した。

<https://www.nanbyou.or.jp>

～私のおすすめ～書籍紹介



「認知症にはなりたくない」「認知症になったらおしまいだ」..と思っている人も多いと思います。

なぜそう思うのでしょうか？本当に認知症になったらおしまいでしょうか？認知症の人は何もできない人ではありません。その人には何かしらの力があり、人の役に立ちたいと思っています。認知症になっても幸せに生きている人はたくさんいます。

長生きすると、認知症になる人がほとんどです。私たちがいずれ行く道。認知症になったとしても、役割や生きがいを持ち、明るく楽しく過ごすことができたらいいですね。

そこでお勧めの本は山口晴保先生著の「認知症ポジティブ！～脳科学でひもとく笑顔の暮らしとケアのコツ～」(協同医書出版社)

「認知症」のイメージをネガティブからポジティブに変えようという筆者の思いがよく分かります。笑顔になれる。皆さんも是非ご一読を!!

それでも認知症の症状が進んでしまうと本人も家族も辛くなります。でも安心してください。認知症は生活習慣病。薬以外での改善の方法が分かり始めています。

おすすめの本は岡本一馬先生著「最強★岡本式メソッド」(幻冬舎) ..あやしい..と感じたあなた、そう思うのも無理はありません。しかし、結果を出しています。

実は私も認知症リハビリテーション専門士として勉強をしています。この本をお読みいただき、ご意見いただくと幸いです。(水崎)



家康くん缶バッジができたのじゃ

※販売・配布はしていません

医療マークとハートを持った出世大名家康くんは、浜松市の在宅医療・介護推進事業のシンボルキャラクターです。このたびこのキャラクターをモチーフとした缶バッジを作成しました。

会議等に参加する際に着用しておりますので、見かけましたらお声かけください。

